



2026年5月29日

各 位

会 社 名 株式会社日神グループホールディングス
代表者の氏名 代表取締役社長 神 山 隆 志
(コード番号：8881 東証プライム市場)
問い合わせ先 代表取締役専務 黒 岩 英 樹
電 話 番 号 0 3 - 5 3 6 0 - 2 0 1 6

2026年3月期決算説明動画公開のお知らせ

当社は、2026年3月期決算説明会（機関投資家・アナリスト様向け）は、動画配信形式にて開催することといたしましたので、お知らせいたします。

決算説明動画及び決算説明に関する資料の掲載概要については下記の通りとなりますので、ご高覧いただければ幸いです。

記

1. 公開日：2026年5月29日（金） 15:30
2. 説明者
代表取締役社長 神山 隆志
3. 決算説明動画（YouTube）
<https://youtu.be/5-jDNRXpcK0>
4. 書き起こし記事掲載先
<https://finance.logmi.jp/articles/385179>
5. 本件に関するご質問につきましては、以下のメールアドレスまでお願いいたします。
いただいたご質問については後日回答申し上げます。
株式会社日神グループホールディングス 企画管理部
Mail: nsinfo@nisshin-group.co.jp

以 上

2026年3月期 通期決算説明資料

2026年5月29日

株式会社日神グループホールディングス

証券コード： 8881

NGHD
日神グループホールディングス



AGENDA

1. エグゼクティブサマリー
2. 通期決算概要
3. 建設事業
4. 不動産管理事業
5. 不動産事業
6. 株主還元
7. 2027年3月期 業績見通しについて

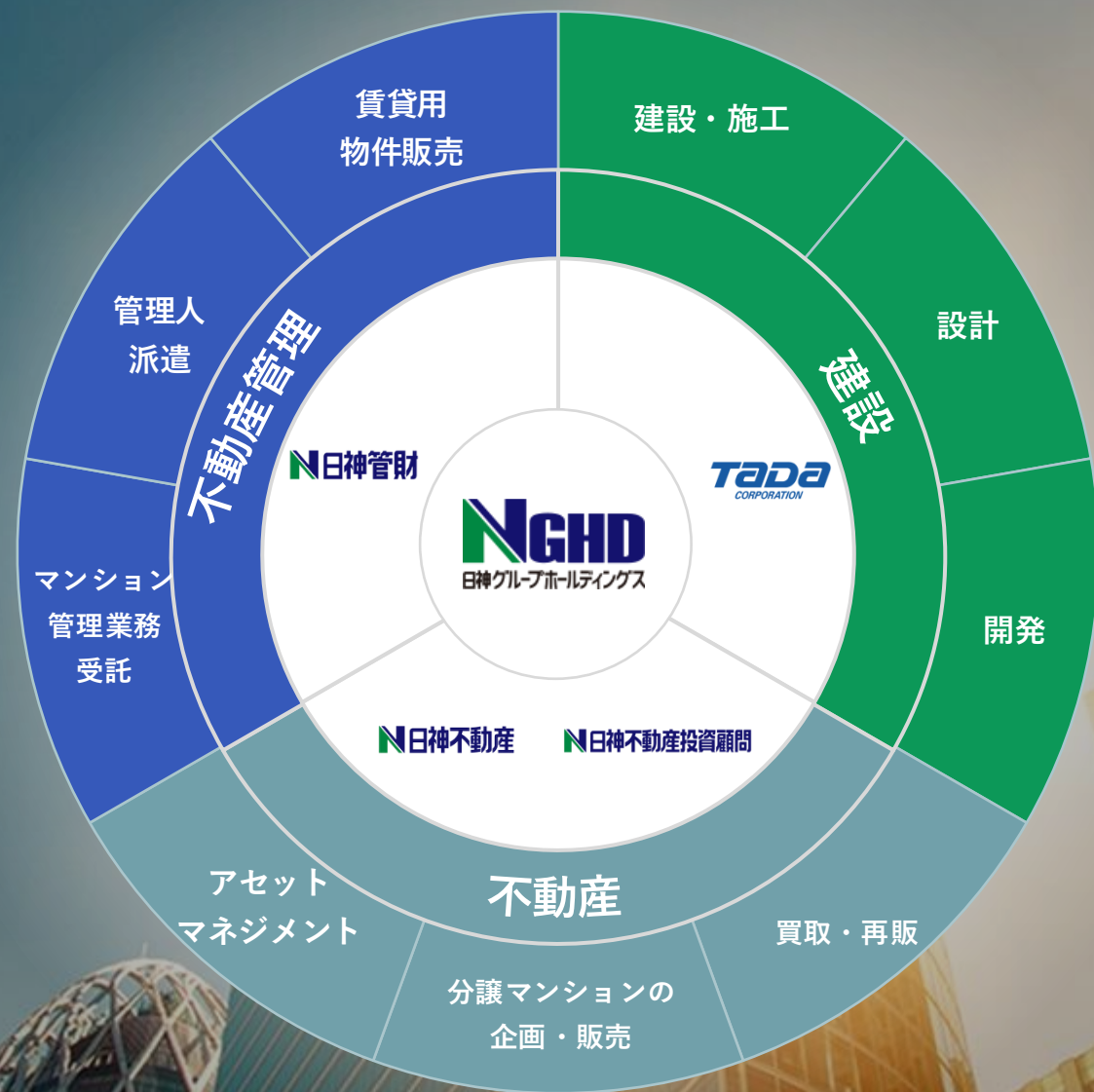


エグゼクティブサマリー

0

「総合不動産・建設業」 日神グループホールディングス

不動産の開発・販売・管理を一気通貫して手掛け、
居住体験の最大化・不動産価値の向上を実現する



日神グループHDの概要

当社は「**総合不動産・建設業**」として、建設事業・不動産事業・不動産管理事業の3事業の推進を通じて、不動産の川上から川下まで、バリューチェーンを網羅する。

事業セグメント



建設事業

事業の特徴・関連グループ会社

100年以上の社歴。マンション建設に強み。資材高騰や人件費高騰をこなし、価格転嫁による採算性向上に取り組む。

関連会社 



不動産事業

1都3県を中心に住宅の開発・販売。100名以上の営業人員を中心とした“対面営業の徹底”が特徴。

関連会社  



注力事業

不動産管理事業

不動産事業で販売した物件を中心に、他社物件の管理も担う。利益率の高いストックビジネスの積上げ強化に取り組む。

関連会社 

財務実績

売上高 **39,382**百万円 前年同期比 +6.9%

利益 **3,841**百万円 前年同期比 +87.6%

売上高 **31,414**百万円 前年同期比 +10.0%

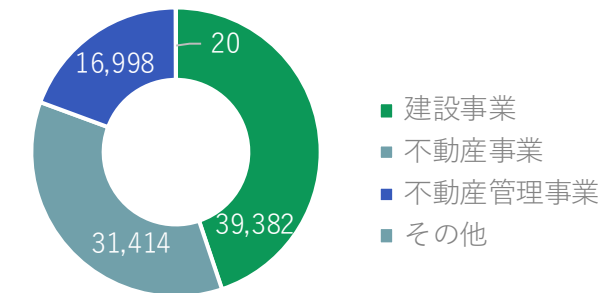
利益 **1,515**百万円 前年同期比 +76.1%

売上高 **16,998**百万円 前年同期比 +57.1%

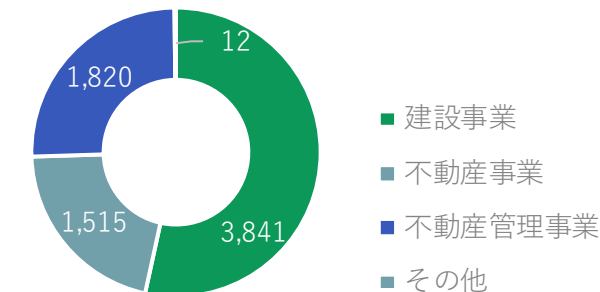
利益 **1,820**百万円 前年同期比 +91.3%

セグメント別構成比

セグメント別売上構成比 (26/3期)

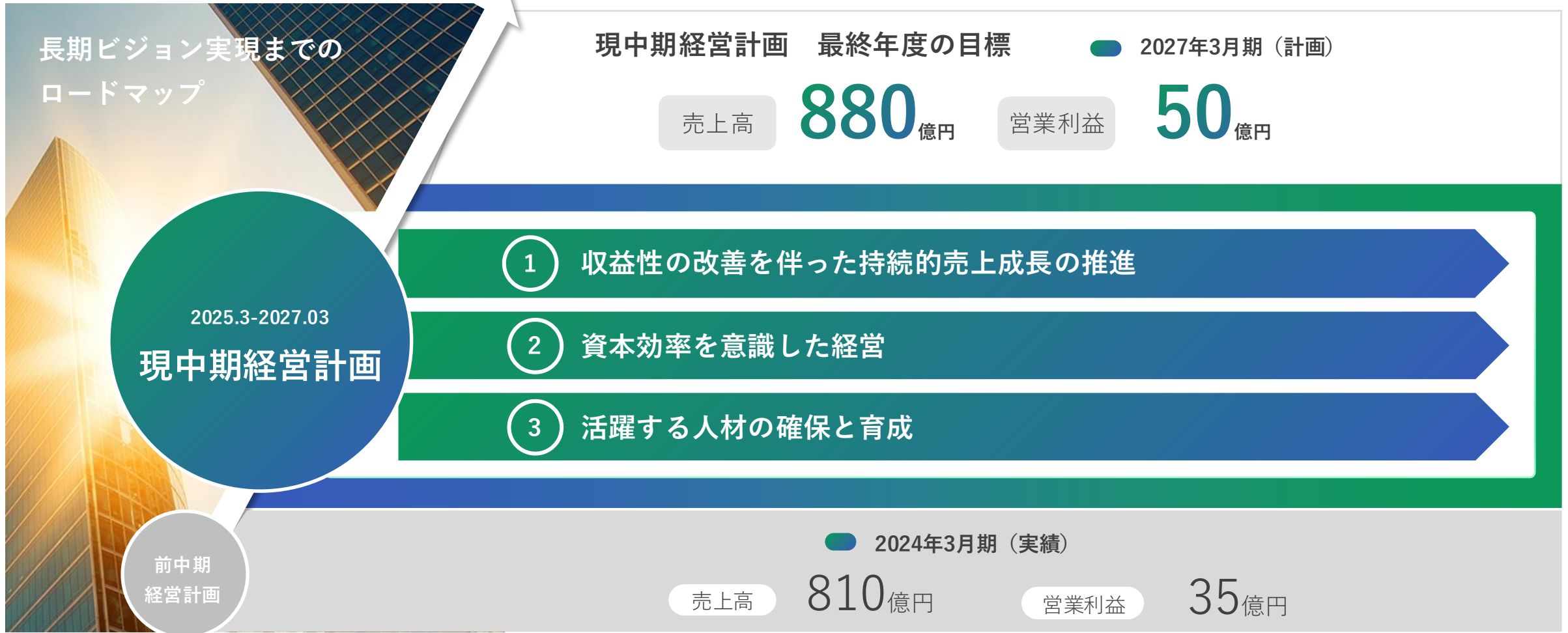


セグメント別利益構成比 (26/3期)



中期経営計画：現中期経営計画の位置付け

資本効率と収益性を意識した経営、戦略の推進により持続的成長を図る。



1年前倒しで中期経営計画の利益計画を達成。

2027年3月期においても、中期経営計画を上回る業績、及び、増配を予定。



2026年3月期 業績予想修正の変遷と、予想に対する達成状況

期初予想に対して、各段階利益は約1.7~1.8倍の実績を達成。3Qで発表した修正予想に対しても**上振れ**て着地。

通期業績予想の修正

	期初予想	営業利益以下を大幅に上方修正 修正予想 (2Q: 2025年11月)	さらに上方修正 修正予想 (3Q: 2026年2月)
売上高	84,000百万円	85,000百万円	86,000百万円
営業利益	3,800百万円	5,300百万円	5,500百万円
経常利益	3,400百万円	4,700百万円	4,900百万円
当期純利益	2,300百万円	3,100百万円	3,300百万円

営業利益以下で大きく**上振れ**

2026年3月期 実績

87,815百万円 **102.1%** 達成率

6,678百万円 **121.4%** 達成率

6,004百万円 **122.5%** 達成率

4,196百万円 **127.2%** 達成率



通期決算概要

2026年3月期 決算概要

前期の繰越案件を今期に取り込んだ影響で、通常よりも業績が上振れる要因となった。**連結売上高は過去最高を更新。**
 繰越案件の影響を除いた業績においても各セグメントで好調を継続。受注残や不動産事業支出金など先行指標が積み上がる。

● 期間累計 (2025年4月～2026年3月)

当期純利益は前年同期比で約 **2** 倍

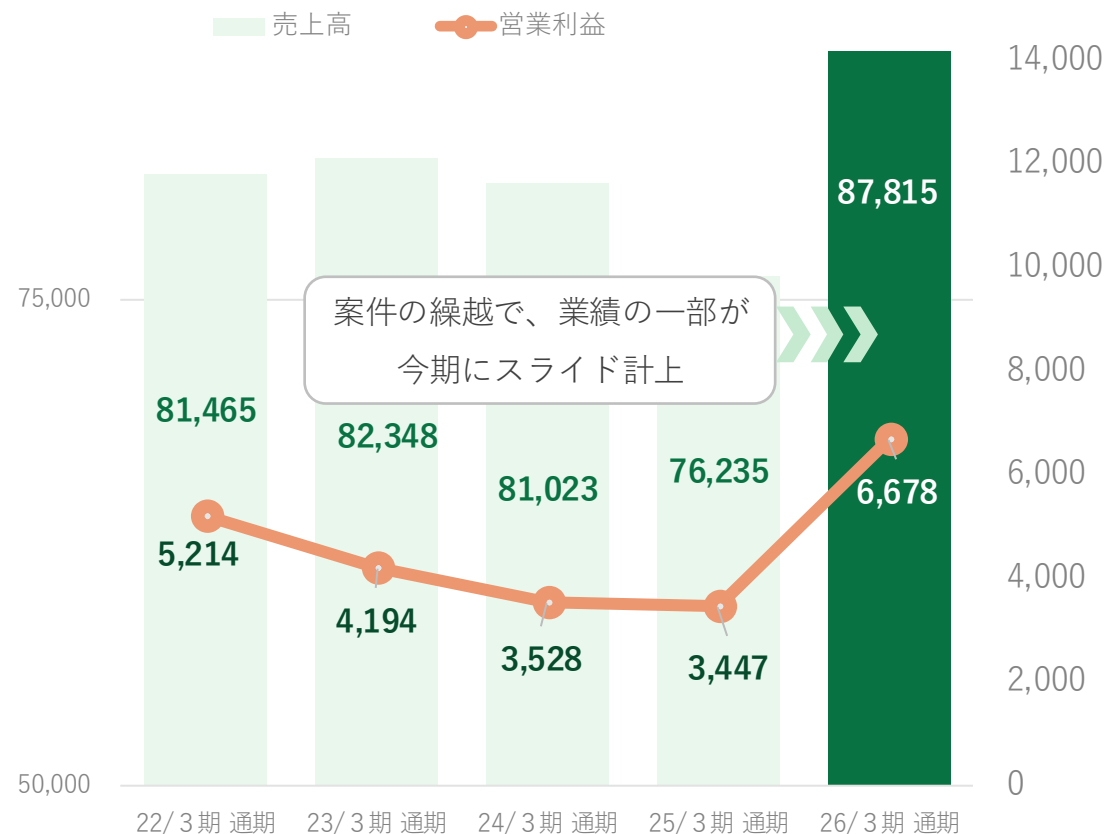
売上高 **87,815** 百万円 前年同期比 **+15.2%**

営業利益 **6,678** 百万円 前年同期比 **+93.7%**

経常利益 **6,004** 百万円 前年同期比 **+95.6%**

当期純利益 **4,196** 百万円 前年同期比 **+103.9%**

● 売上高と営業利益の5ヵ年推移

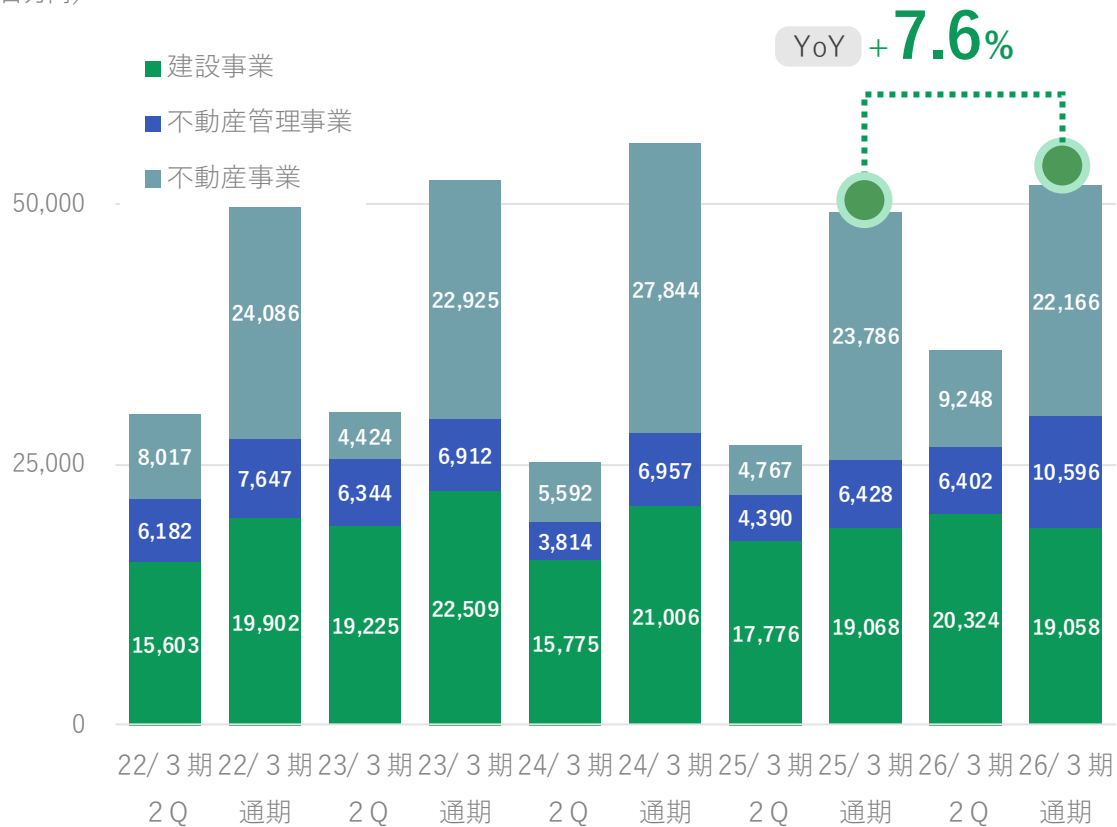


2026年3月期 半期売上推移とセグメント別売上の状況

建設事業における粗利改善や、不動産販売における好調な販売推移により、利益改善が大きく進む。

● 半期毎の売上高の推移

(百万円)



(単位：百万円)

	25/3期 通期実績	26/3期 通期実績	増減率
売上高	76,235	87,815	+15.2%
建設事業	36,844	39,382	+6.9%
不動産管理事業	10,819	16,998	+57.1%
不動産事業	28,554	31,414	+10.0%
セグメント利益			
建設事業	2,047	3,841	+87.6%
不動産管理事業	951	1,820	+91.3%
不動産事業	860	1,515	+76.1%

セグメント別の売上およびセグメント利益の推移

前期に計画していた物件が今期に繰越計上となったことで、通常よりも高い伸び率となった。
 建設事業を筆頭に、好調な事業環境と、人材投資・育成による競争優位性の構築により想定を上回る利益となった。



全セグメントで増収・増益

2026年3月期 BSサマリ

人手不足や働き方改革法案で業界全体の工期長期化に伴い、2期先まで含めた先行投資として、不動産事業支出金が積み上がる。先行投資のための運転資金を借入を増やすことで充当。

※主要項目のみを抜粋

(単位：百万円)

	2025年3月	2026年3月	増減額	増減率	備考
流動資産	116,407	128,732	+12,325	+10.6%	
現金及び預金	54,343	58,079	3,736	+6.9%	
受取手形・完成工事未収入金等	15,179	12,027	△3,152	△20.8%	工事完成に伴い、未収入金は減少
販売用不動産	15,064	17,812	+2,748	+18.2%	
不動産事業支出金	27,615	38,158	+10,543	+38.2%	不動産物件の開発工事長期化に鑑み、先行投資額を増額
固定資産	16,893	18,671	+1,778	+10.5%	
資産合計	133,300	147,404	+14,104	+10.6%	
流動負債	34,232	37,067	+2,835	+8.3%	
短期借入金	16,948	21,467	+4,519	+26.7%	長期借入から今期返済分を短期に振替えているため増加。
固定負債	29,691	37,578	+7,887	+26.6%	
長期借入金	26,845	35,410	+8,565	+31.9%	「販売用不動産」・「不動産事業支出金」への投資資金確保のため増加。
負債合計	63,924	74,645	+10,721	+16.8%	
純資産	69,376	72,759	+3,383	+4.9%	利益計画の上振れに伴い増加
負債・純資産合計	133,300	147,404	+14,104	+10.6%	



建設事業

03

事業の特徴・ビジネスモデル

受注案件の精査を進め、案件規模と粗利向上に取り組む。

建設業界の市場環境・課題

市場環境・2024年問題により、 工期長期化、人件費等コスト増加

建設業界の従来課題



慢性的な人材不足



労働人口の高齢化



長時間労働の常態化



建設業界の2024年問題



残業上限



時間外労働賃金の増加



インボイス



当社（多田建設）の特徴

創業以来100年以上のノウハウと、 マンション建設に特化し効率向上

当社の建設事業の特徴



グループ外受注90%



マンション特化



創業100年以上



需要環境を活かし、案件採算性を担保



採算性重視



10年連続
約2,000戸引き渡し

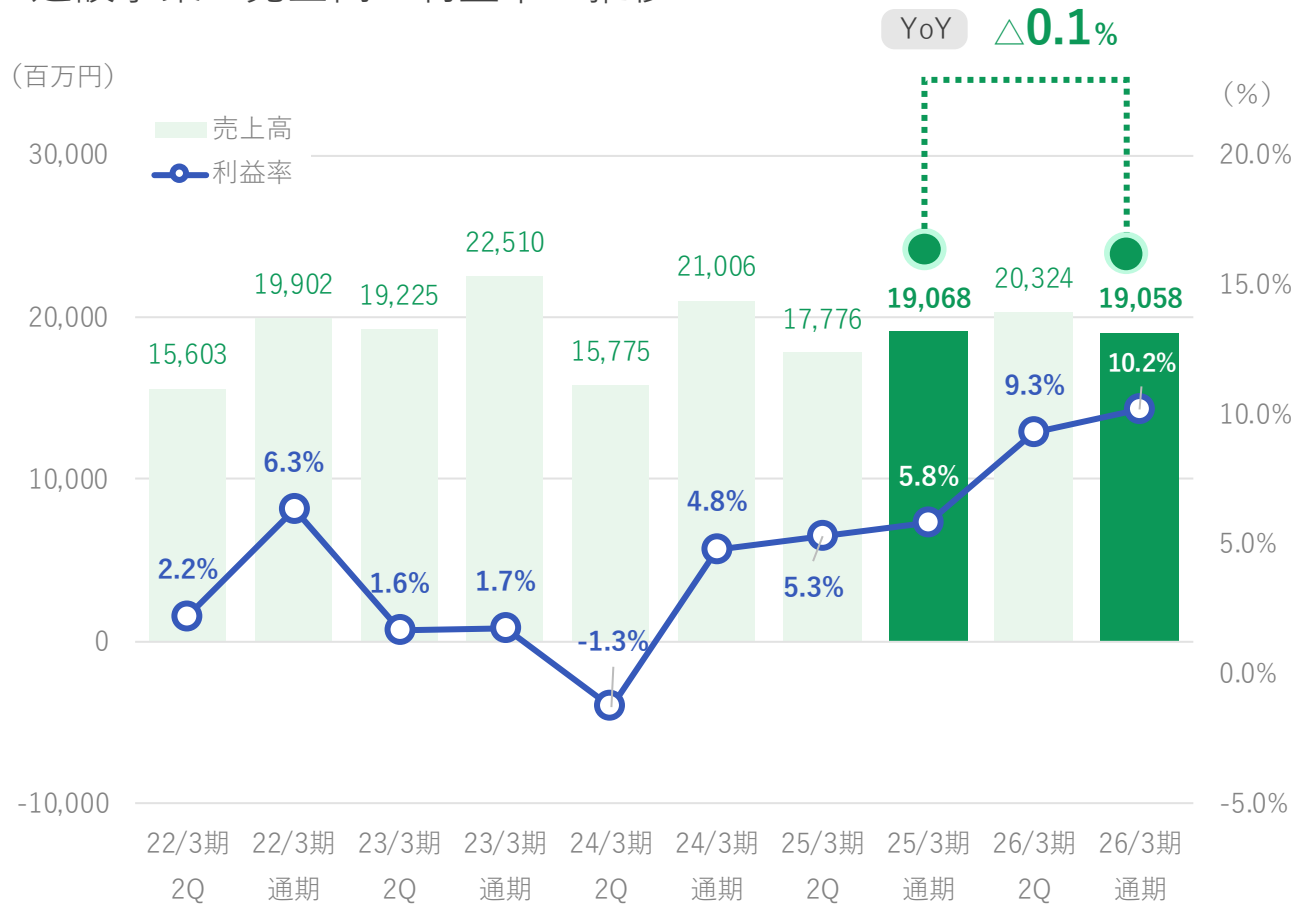


ニーズの把握
アフターフォロー

建設事業セグメント業績

中期経営計画で掲げた提案型営業の強化による特命案件比率を上げることで、案件粗利率の適正化が進む。
 下期のセグメント利益率は10%を超える水準まで上昇。

建設事業の売上高と利益率の推移



26/3期 のサマリー

引き続きセグメント利益^①の増益が続く

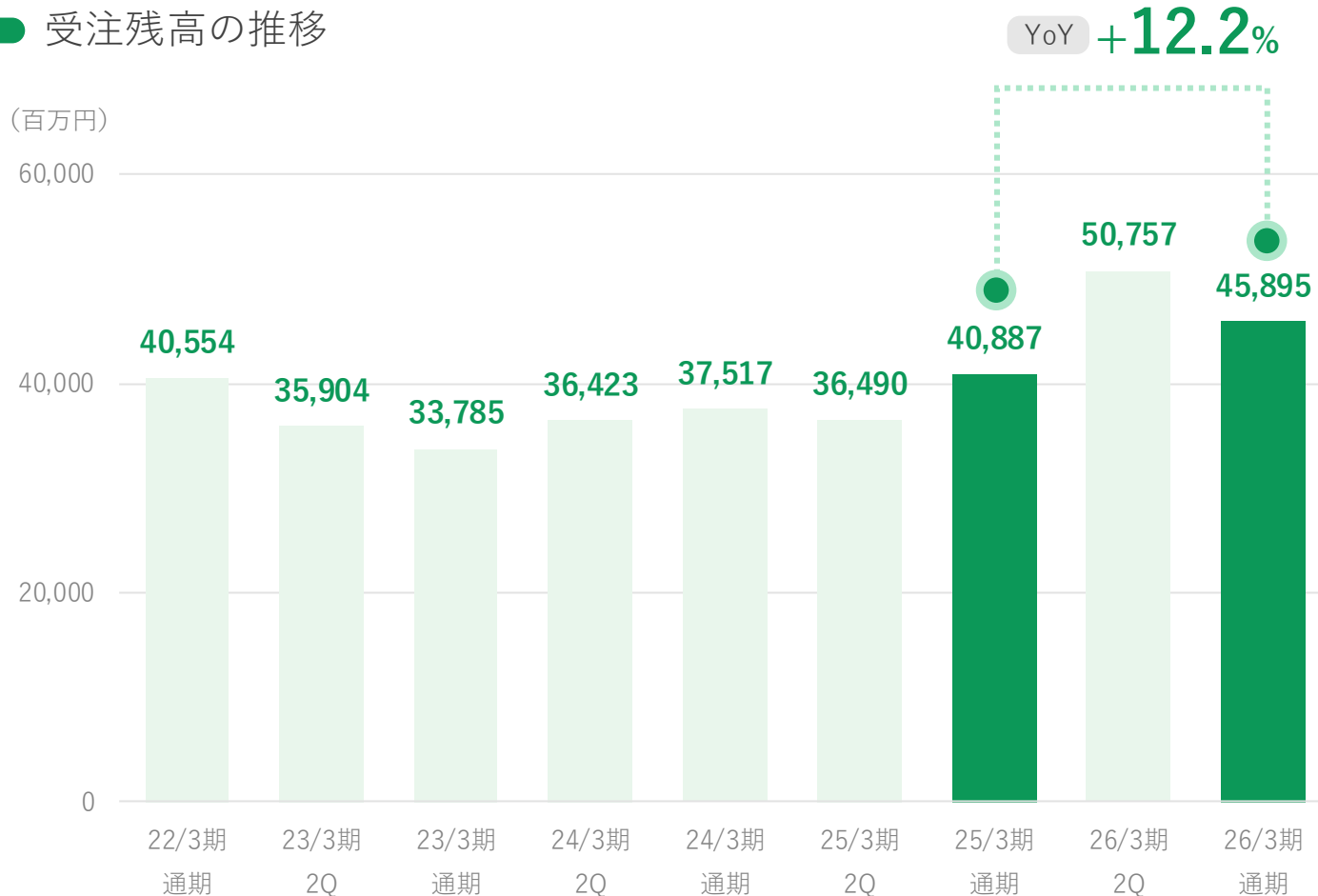
(単位：百万円)	25/3期 通期実績	26/3期 通期実績	増減率
売上高	36,844	39,382	+6.9%
売上総利益	2,820	5,869	+108.1%
売上総利益率	7.7%	14.9%	+7.2pt
セグメント利益	2,047	3,841	+87.6% ^①
セグメント利益率	5.6%	9.8%	+4.2pt

主要KPIの推移：受注残高の推移

計画通り下期にかけて完成引き渡し物件が増えたことで、受注残高の消化が進む。

提案営業による特命案件の受注に伴う単価上昇に加え、工事の長期化や1案件あたりの大型化などの影響から、12%増加。

● 受注残高の推移



受注環境のトレンド

①
受注環境は、引き続き好調

②
提案型営業による
特命案件の受注は継続

③
資材等のインフレ圧力や人材
確保、人件費の上昇から
受注単価も上昇傾向

建設事業の人的資本投資

人材投資を積極化し、採用から育成まで強化。従業員の技術力強化やノウハウの若手への伝承を通じて中長期的な競争力の維持・強化に努める。今期の利益率改善についても組織マネジメントの強化を通じて達成しており、引き続き注力する。



私たちは100年の技と術を
次世代へ繋げ社会へ貢献します

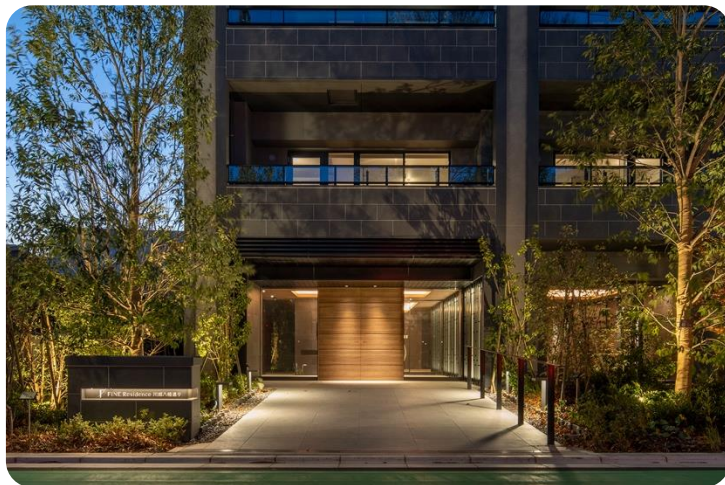
採用

育成

マネジメント
強化

人への投資を通じて技術力の維持・向上

今期施工例① 分譲マンション



名称 川越市脇田町マンション計画新築工事

所在地 埼玉県川越市脇田町

発注者 京阪電鉄不動産株式会社・東急リバブル株式会社

今期施工例② 分譲マンション



名称 荻窪計画新築工事

所在地 東京都杉並区宮前

発注者 自社事業


今期施工例③ 分譲マンション



名称 さいたま市高砂マンション新築工事

所在地 埼玉県さいたま市浦和区

発注者 タクトホーム株式会社



不動產管理事業

04

事業の特徴・ビジネスモデル

不動産事業の引渡後、管理事業のストックビジネスに。他社案件のリプレイスも加えて**ストック積上げによる成長を図る。**

盤石な管理物件の仕入れルート

7つの事業シナジー効果による高い収益性

メインの仕入れルート

不動産事業
 不動産事業で引き渡した物件の年間約400~500戸が、不動産管理事業の管理戸数に繋がる。

他社案件の獲得
 不動産管理事業について、従来よりもグループ企業に固執しない傾向があり、他社案件獲得を狙う。



その他の仕入れルート

独自の不動産開発・販売
 賃貸管理事業の積上げを目的とし、日神管財独自の不動産開発・販売を手掛ける。

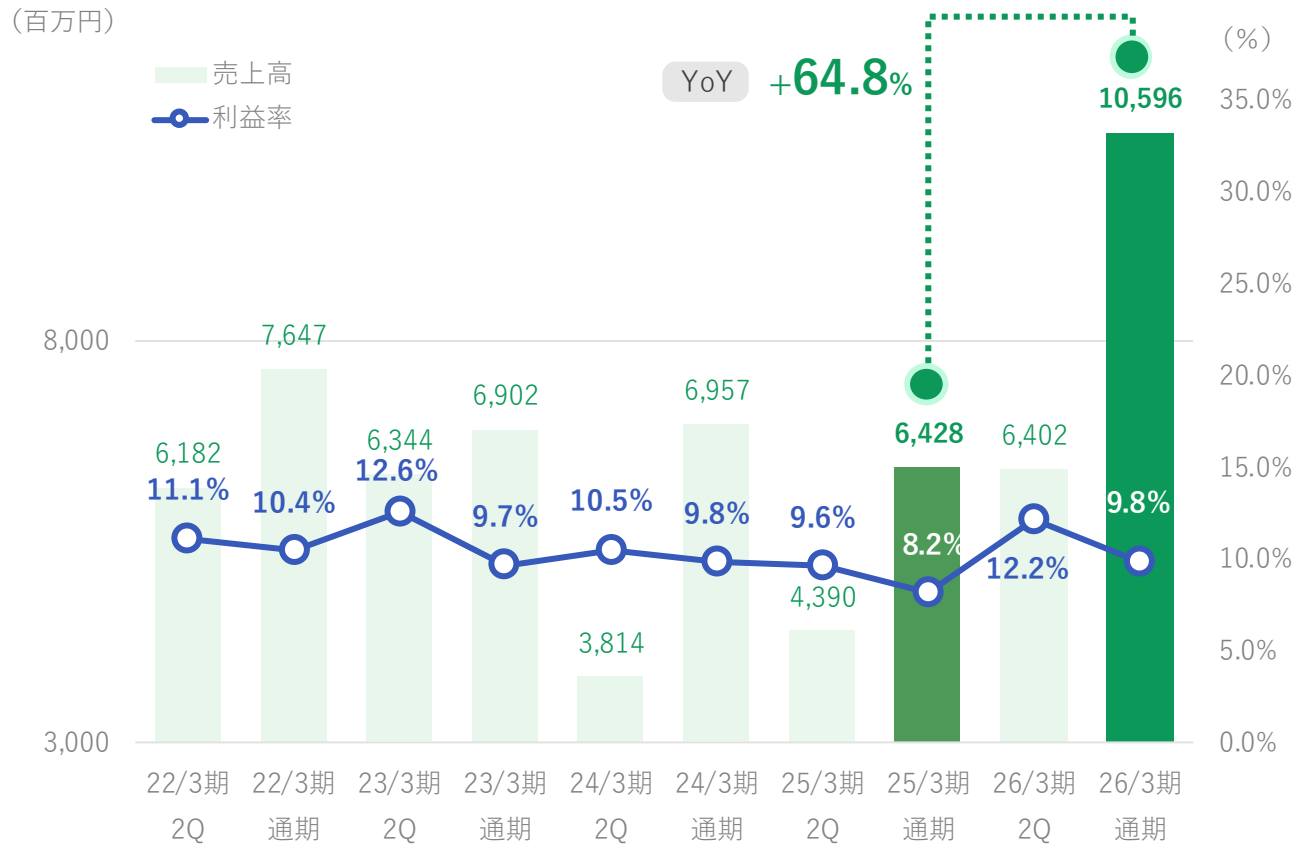
管理戸数の向上には大きな影響を与えないが、販売による一過性の収益の変動要因に。



不動産管理事業セグメント業績

管理戸数の上昇に伴い**ストック売上高が順調に成長**。管理戸数を増やすため自社で開発する不動産物件の一棟販売が前期からの繰越しで今期計上となったこともあり、売上高・セグメント利益ともに大幅に増収増益となった。

不動産管理事業の売上高と利益率の推移



26/3期のサマリー

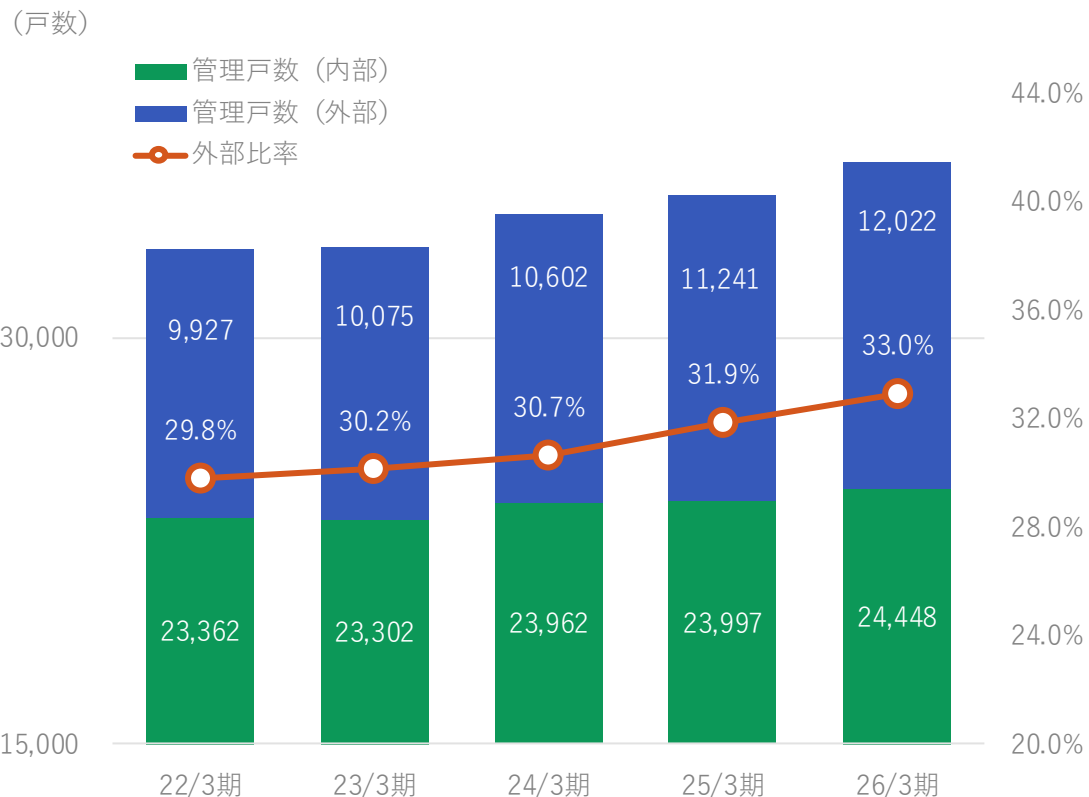
**管理戸数増を狙う一棟販売が進み
大幅に増収増益**

(単位：百万円)	25/3期 通期実績	26/3期 通期実績	増減率
売上高	10,819	16,998	+57.1%
売上総利益	2,775	3,596	+29.6%
売上総利益率	25.7%	21.2%	△4.4pt
セグメント利益	951	1,820	+91.3%
セグメント利益率	8.8%	10.7%	+1.9pt

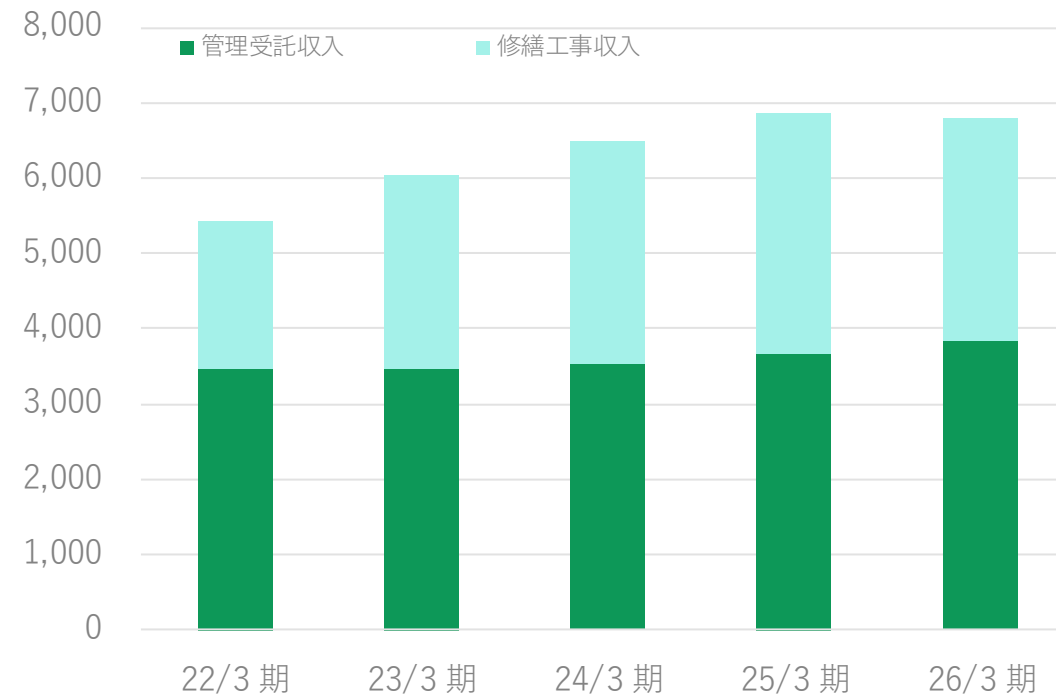
主要KPIの推移：管理戸数の推移

グループ内における不動産販売物件の管理戸数積み上げとともに、グループ外の管理戸数についても積み上げた。特にグループ外案件の獲得に注力し、外部比率は上昇傾向。管理受託収入の積み上げと修繕機会の継続的な向上を実現。

管理戸数とグループ外物件の管理戸数比率の推移



修繕工事収入・管理受託収入の推移



05

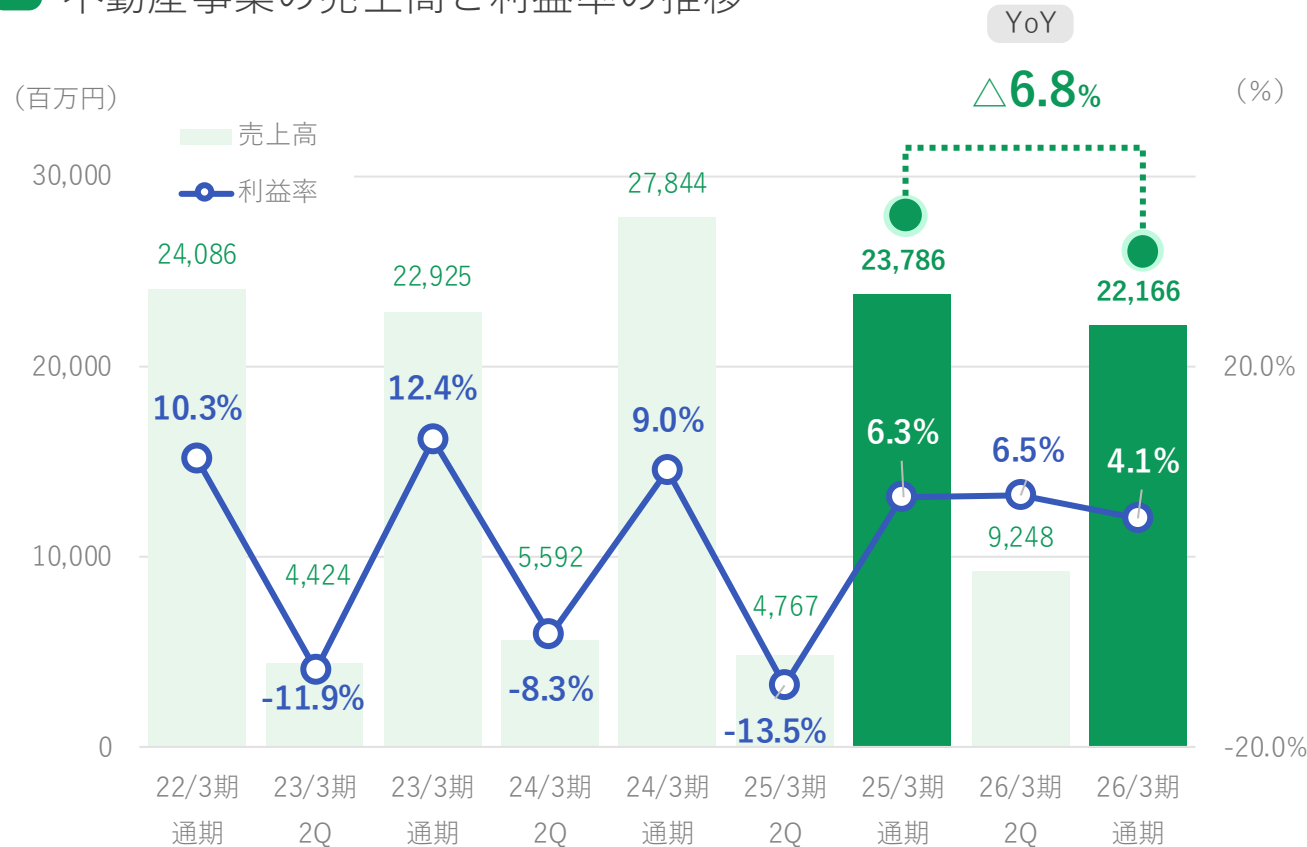
不動產事業

不動産事業セグメント業績

昨期からの繰越案件を上期に計上できたことで、通期の売上高およびセグメント利益も大幅に上昇。

セグメント利益は約1.7倍の15億円を計上。

不動産事業の売上高と利益率の推移



26/3期 のサマリー

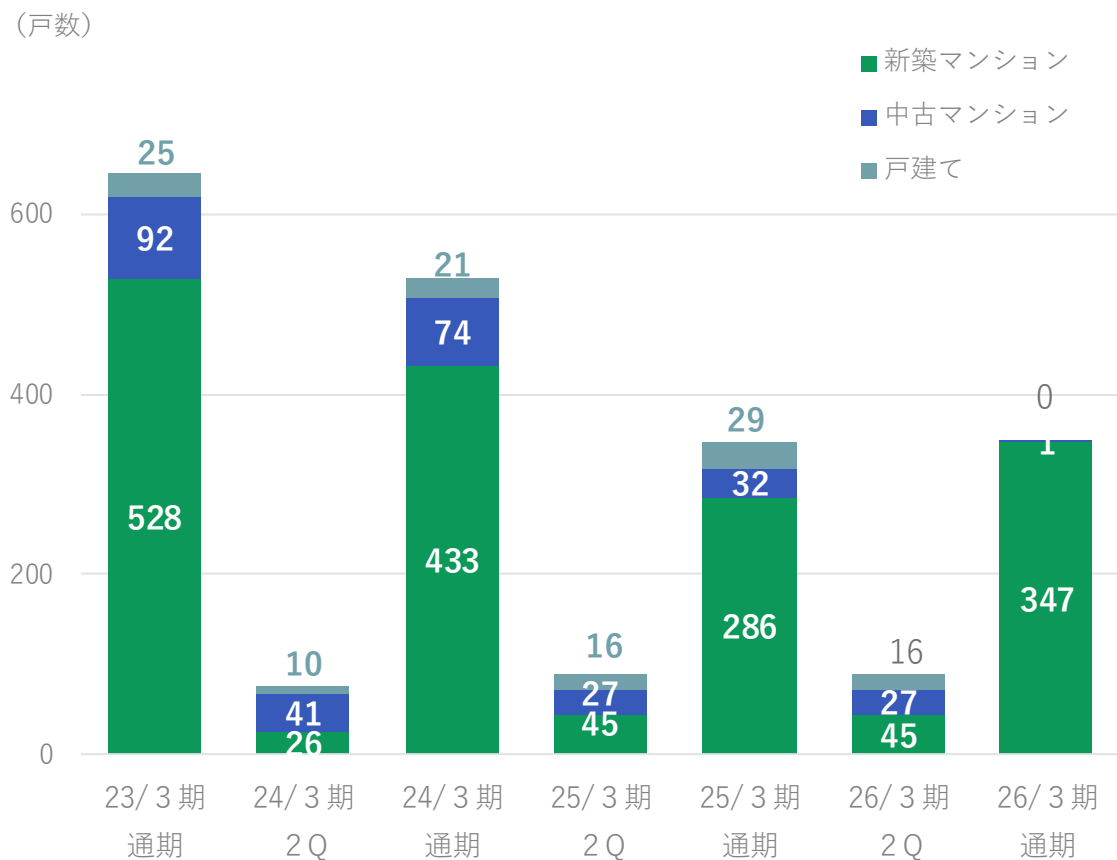
セグメント利益は前年同期比で約1.7倍

(単位：百万円)	25/3期 通期実績	26/3期 通期実績	増減率
売上高	28,554	31,414	+ 10.0%
売上総利益	4,813	4,558	Δ 5.3%
売上総利益率	16.9%	14.5%	Δ 2.4pt
セグメント利益	860	1,515	+76.1%
セグメント利益率	3.0%	4.8%	+1.8pt

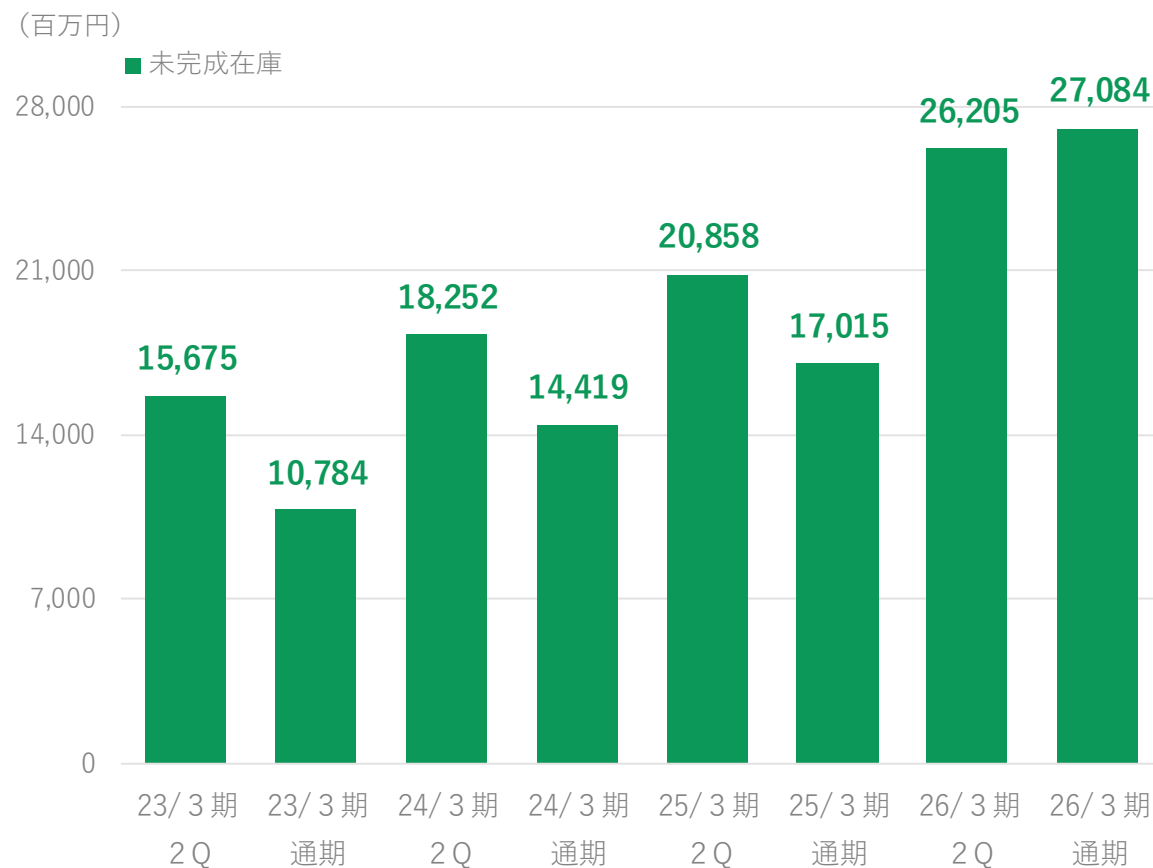
主要KPIの推移：販売戸数と未完成在庫数の推移

不動産開発に係る“工期長期化”という事業環境を受けて、2期先までの不動産開発への先行投資を積み増していることや1案件あたりの規模を比較的大型化することによる案件あたりコスト削減の観点から未完成在庫が積み上がった。

販売戸数の推移



未完成在庫（事業支出金）の推移



不動産事業セグメントトピックス

販売開始して引き渡し前のマンションの一例。



物件名 DS海老名 II
所在地 神奈川県海老名市泉一丁目3番23
完成日 2026/8/31(予定)
総戸数 141



物件名 DS武蔵関
所在地 東京都練馬区関町北四丁目4番
完成日 2026/10/29 (予定)
総戸数 58



物件名 PS横浜田奈
所在地 神奈川県横浜市青葉区田奈町13-8
完成日 2027/3/31 (予定)
総戸数 55



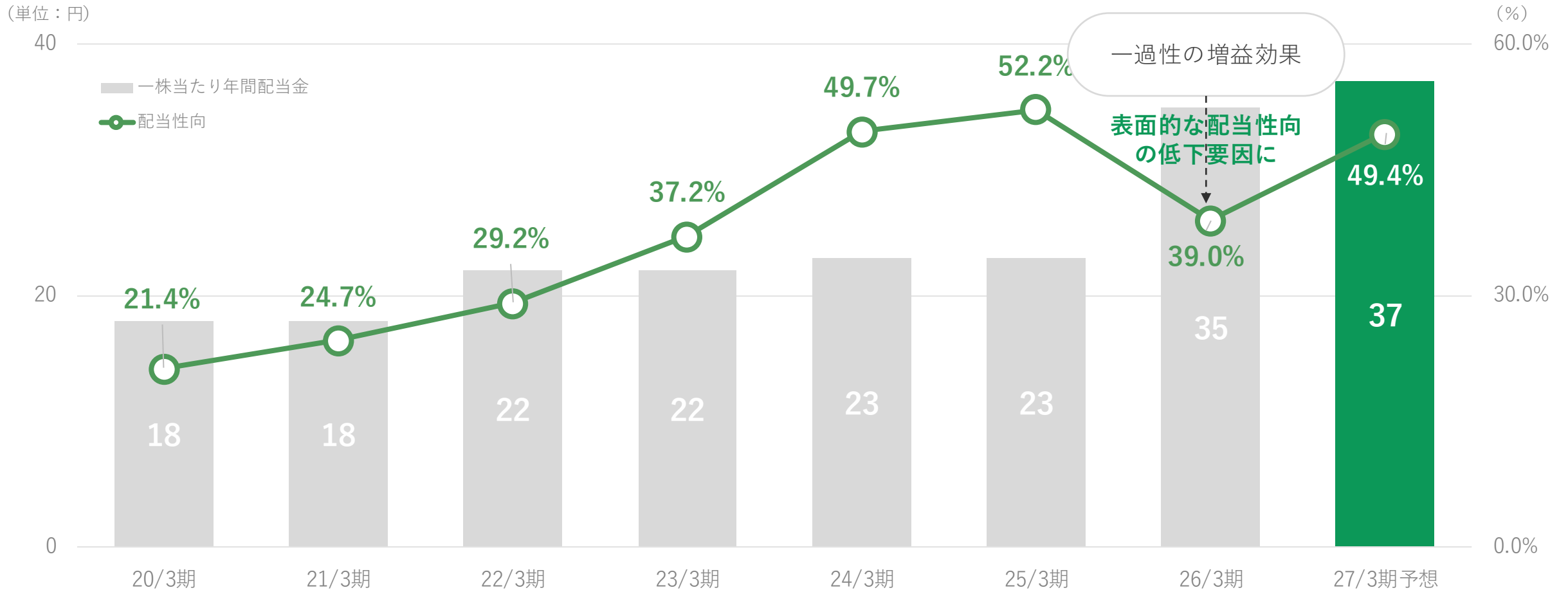
物件名 PS宮崎台 III
所在地 神奈川県川崎市宮前区宮崎282-1
完成日 2027/3/31 (予定)
総戸数 106




株主還元

株主還元を引き続き強化

26/3期は、一過性の増益要因が重なったことや、継続的に安定した配当方針を重視していること、また、工事の長期化に伴う投資資金の確保から、表面的な配当性向は一時的に低下したが**35円に増配**。**27/3期も37円に増配予定**。





2027年3月期 業績見通しについて

07

計画サマリー

26/3期は、25/3期からの繰越案件の影響で一時的に上振れ幅が大きくなったため、27/3期は減益を見込む。
 好調な事業環境と競争優位性の観点から、**中期経営計画の数値目標を上回る利益計画を見込む。**

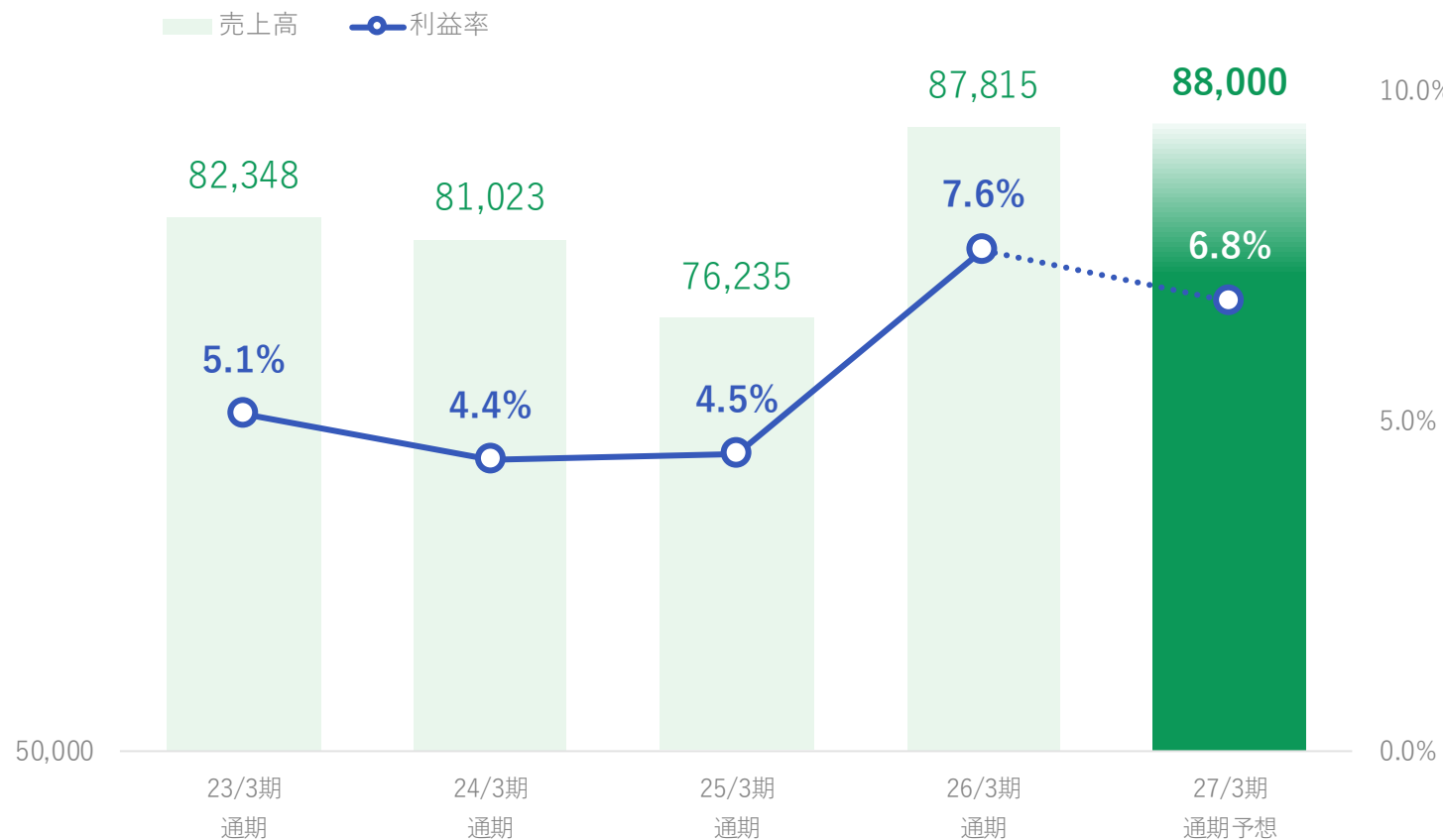
(単位：百万円)	26/3期通期実績			27/3期 通期計画		
	通期実績	売上比	前期比	通期計画	売上比	前期比
売上高	87,815	100%	+15.2%	88,000	100%	+0.2%
営業利益	6,678	7.6%	+93.7%	6,000	6.8%	△10.2%
経常利益	6,004	6.8%	+95.6%	5,000	5.6%	△16.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,196	4.7%	+103.9%	3,500	4.0%	△16.6%
1株当たり当期純利益	89.84	—	—	74.93	—	—

売上高と営業利益の推移

建設事業はじめ好調な事業環境を背景に**中期経営計画の目標数値を上回る利益計画を予想**。

減益を見込むが、26/3期は繰越案件の計上など一過性利益が計上され、通常以上に利益が出たことが主な要因。

売上高と利益率の推移



売上高

88,000 百万円

前年同期比 **+0.2%**

営業利益

6,000 百万円

前年同期比 **△10.2%**

営業利益率

6.8%